

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年2月26日

事業所名 尼崎市立たじかの園

	チェック項目	現状と工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	・個別のリハビリテーションを実施する部屋が足りない ・登園人数や活動により、部屋が狭い ・部屋を仕切ったり、別の部屋を利用する等、工夫をしている。また、整理整頓を心がけている	・スペース的に限りはあるが、今までと同様、調整して有効利用していく
	2 職員の配置数は適切である	・施設の人員基準は満たしているが、利用者のニーズ(特にリハビリテーションに関して)は、満たしきれていない。また、職員の業務量は、多い ・1職種1名の配置となっている部門は、代替がききにくい	・順次、職員配置について検討していく
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	・段差にスロープを設置する等、動きやすくするための工夫をしている ・トイレについては、人数が多くなるとトイレが狭く感じ使いづらいが、オムツを置く台やオマルを減らしてスペースを調整。また、呼吸器使用のお子さんについては、オムツ替えのため別の場所を設けるなど、可能な限り工夫している	・おむつ台の拡大や柵などの安全対策、こども用便座の手すりの位置など、構造上十分な工夫ができない部分については、改造工事について検討していく
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	・業者委託により、毎日清掃を行っている ・手指消毒を行い、清潔保持に努めている ・設備の老朽化あり、空調、給湯設備が使いづらい	・設備の老朽化は否めないが、改修については、検討していく
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	・日常の業務、行事については、次に活かせるようふり返しを実施するようにしている ・事業目標、計画、報告について、職員会議等で意見を聞きまとめている	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	・今年度から、評価表による保護者評価を実施 ・昨年度までは、アンケートを実施する他、父母会からの要望、意見を聞く会で意見をうかがい、意向の把握をしてきた ・要望についての回答、アンケート結果の公開はしていたが、意見を聞く会で頂いた意見については、回答を保護者全体に伝え切れていなかった	・いただいた意見や要望に対する回答、どう改善につながったのか、書面等を通して丁寧にお知らせしていく
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	・今年度から自己評価の実施、公表を行う ・昨年度までは、父母会からの要望を聞く機会を設け、役員を通して回答を行っていた	・ホームページで自己評価結果を公表する ・今年度以降も父母会からの要望に対し、場を設け回答する
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	・実施していない	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	・研修係を中心に計画的に研修を実施。新任職員研修、園内研修実施、外部研修への参加、外部研修参加者による伝達講習を行い、資質向上に努めている	・今後も、職員の資質向上のために、研修等の機会を設けていく
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	・保護者に「たじかのっこシート」を記入してもらい、担任が聞き取りを行い、ニーズの把握を行っている ・ニーズや課題については、主観的なことが多いように感じる	・職員がお子さんの反応について客観的な根拠が持てるよう、カンファレンス等の機会に多職種で討議を重ねていく
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	・発達検査(新版K式等)を実施。また、他機関で発達検査を行っている児童については、結果を把握するよう努めている ・リハビリテーションでは、言語聴覚療法で固形ハ式(S-S)法など、それぞれの部門でお子さんに応じた評価を取り入れている	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	・ケースカンファレンスで、情報の共有を行い、それぞれの項目ごとに、支援内容を設定している ・ケースカンファレンスは、多職種が時間をかけて討議をしている	・今後も、お子さんに必要な支援を、具体的に示していけるよう努力する
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	・計画を意識した関わりを行っている	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	・保育の活動プログラムは、年間予定に基づき、都度話し合って決めている ・行事は、職員会議で内容を検討している	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	・同じ内容、使う道具が一緒でも、マンネリ化しないようにバリエーションを考えている ・成長の節目や季節を感じられる行事、伝承行事を行っている	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	・年齢や発達がそれぞれ違うので、個々の課題を考え、かかわりを工夫するようにしている	・体制が整えば、年齢に応じ、個別保育の実施を検討していく
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	・個別に配慮すべき点等は、職員朝礼等で伝達し確認している ・集団活動については、行事時の事前打合せ役割分担の確認は必ず行っているが、日々の保育は、出席状況が変わった場合、支援開始までの時間が短く変更点等十分に話ができないことがある	・支援開始までの時間が短い点について、デイリープログラムの変更を含め検討する
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	・行事の際には、必ず実施している ・保育活動については、積極的に離す機会をもうけているが、カンファレンス等の関係もあり毎日行っていない ・個別については、他の部門のスタッフとも気付きの共有を行っている	・毎日話をする機会が持てていない現状については、時間をどのように確保するかデイリープログラムの変更を含め検討する
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	・保育日誌、リハビリテーションのカルテ等に、支援内容を記載している	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	・6ヶ月に1回以上モニタリングを行い、支援計画の作成をしている ・支援方法の変更が必要な時は、随時カンファレンスを行っている		
その他	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	・必要に応じた職種が積極的に参加している	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	・個別支援計画のやり取りや、相互の事業所や保育園等の見学を通して、連携した支援が行えるよう努めている	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	・主治医から療育に関する意見を書面でもらったり、他の事業の見学、個別支援計画のやり取りなど連携に努めている ・担当以外のお子さんについては、情報共有が十分でなく、把握できていない点があるかもしれない	・今後も、他機関の情報も含め朝礼等で必要に応じ情報を共有するよう努める

	チェック項目	現状と工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	・医師、看護師を通して、主治医に意見を頂くようにしている ・連絡体制(緊急時)の見直しが必要	・緊急時は、園から主治医に連絡をとり、対応を確認するよう努めている ・緊急時対応マニュアルと防災計画で主治医一覧表が共有されていなかったため、共有する
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	・引継ぎ書を作成し、会議等で引継ぎを行っている 遠方に引越される場合は、保護者を通して引継ぎ書を渡すようにしている ・移行後は、アフターフォローを行い、状況の確認を行っている	・適切な時期にアフターフォローが実施できるよう、移行先と引き続き調整を行っていく
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	・引継ぎ書を作成し、会議等で引継ぎを行っている。また、移行先の職員見学を積極的に受け入れるほか、移行後は移アフターフォローで職員が訪問し、支援内容及び情報の共有に努めている	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	・近畿肢体不自由児療育施設連絡協議会や全国児童発達支援協議会に加盟し、情報の収集、意見交換に努め、また研修に参加している ・聴覚障害のあるお子さんについては、特別支援学校から支援方法の助言をうけている	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	・3歳児以上の児童対象に交流を実施 ・2ヶ所の保育所、老人のグループハウスと交流の機会を持っている	・交流の回数は限られているので、回数については交流先と協議していく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	・園長が参加している	・職員全体へ協議内容の周知を行う
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	・共通理解できるよう努めている ・担当や保護者によることがある	・こどもの状況についての、保護者との共通理解は、支援を行う上で大切にしていることの一つである。引き続き、懇談等を通し共通理解に努める ・こどもの状況を伝え合うために、日ごろから保護者に声をかけるよう努めるとともに、電話やお便りポストの活用を含め柔軟に対応していく
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	・ペアレント・トレーニングは行っていない ・保護者支援の係りを作り、勉強会等計画ミニ講座や保護者勉強会を定期的に開催している ・保護者支援の係を作り、勉強会等計画している	・現状、ペアレント・トレーニングを実施できる体制にないため、保護者勉強会やミニ講座の開催を継続していく
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	・契約時に説明を行っている。また、変更があれば、文書で通知している ・支援内容について、園のしおりを毎年見直し、年度始に配布、説明をしている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	・「発達支援」「家族支援」「地域連携」の項目ごとに、個別支援計画をたて、保護者に説明し、同意を得ている	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	・保育懇談、グループトーク等のほか、不定期で相談に応じ支援を行っている ・通園時間内に、タイムリーに話ができないことがある	・タイムリーに対応できなかった時は、電話やおたよりポストでも対応する ・その他、保護者支援の担当者を中心に、新しいプログラムを考えていく
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	・会議の開催や、外部の会議に出席される際の託児等の協力を行っている ・保護者主催の行事への参加、協力をしている	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	・苦情受付について体制は、整えている ・相談があった時は、担当者で共有し対応を考えている ・対応しようとしているが、人的、物理的に難しい面がある	・要望等に苦情として対応していない部分や時間がかかっている場合がある ・対応可能な部分から、迅速に対応する ・難しい部分もあるが、その場合は説明していく
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	・園だより「たじかのっこ」やクラスだよりを毎月発行している ・行事は、詳細を記載したお知らせを配布し、出欠の確認をしている	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	・やむを得ない場合のファイル等の持ち出しについては、責任者の許可を必要とするルールを厳格に運用している ・懇談の時間や部屋に問題がある	・部屋の関係で、ゆっくり話ができる場所が確保しづらいときがあるが、可能な範囲で配慮する
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	・マカトンを使用したり、視覚的な支援を行っている ・園だより「たじかのっこ」、お手紙、ホワイトボード等で伝達している	・現在実施している方法の他、必要に応じて電話連絡するなど柔軟に対応する
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	・地域住民が参加できる行事はない ・交流先の保育所(園)と老人施設への案内は行っている	・広く地域住民に行事を広報し招待するのは、個人情報保護の関係もあり難しい。交流先に出て行く際に、すれ違う近隣の方々に挨拶する等を通して知っていただく機会したい ・今後も交流先、関連施設への招待を続ける
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	・防災計画と非常時対応マニュアルは、職員に配布、保護者へは控え室に置き周知している ・避難訓練は、時間や状況を変えて訓練する必要がある ・緊急時対応マニュアルの見直しが必要 ・感染症対策マニュアルは作成されているが、保護者への周知はできていない ・インフルエンザ流行時には、予防に関する掲示を行っている。また、地域で流行している感染症について、園児朝礼でお知らせしている	・避難訓練の時間帯や想定を検討し、訓練を行っていく ・避難訓練の都度、職員の動きを見直ししていく ・避難訓練に参加する保護者に対して、避難時の注意事項等を詳細に説明するようにする 以上の取り組みを通して、より災害に対応できる体制を整える
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	・毎月避難訓練を実施している ・実施後は、都度職員の動きを見直ししている	・感染症については、マニュアルを控え室に置き保護者に周知する また、今までと同様必要な注意等について、掲示や園児朝礼で周知する
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	・入園時に、医師、看護師が聞き取り、状況の確認を行っている	・実施しているが、変更等についても会議での周知を徹底する
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	・アレルギーがある場合は主治医の指示書を提出してもらっている ・検査結果等は、当園の医師、看護師、栄養士が確認し協議して対応を決めている	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	・職員会議や職員朝礼で報告し、全職員で共有している	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	・虐待防止員会を設置し、研修等を計画している	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	・身体拘束、行動制限を行う場合は、ケースカンファレンスで確認、決定し、個別支援計画とあわせて保護者に説明を行っている	・必要な行動制限、身体拘束か否かについて、随時見直す

〇この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和2年2月26日

尼崎市立たじかの園

保護者等数(児童数)35 回収数 25 割合 71.4%

区分	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	22	3			<ul style="list-style-type: none"> 登園人数が多い日の水分補給や自由遊びは、密度が高く危険なことがある 廊下に歩行器が置いてあり、すれ違いにくい 一つ一つの物が大きいので狭く感じる時がある 	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理上、自由遊びは一部屋で過ごしていただいています 事業の関係で、別の部屋を利用することが難しい場合が多いのが実情ですが、可能な限り柔軟に対応できるよう努めます 廊下については、歩行器等を決まった場所に置くことを徹底し、整理整頓に努めます
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	5	12	6	2	<ul style="list-style-type: none"> 職員の入れ替えで、新人の育成が追いついていない 母子訓練が多いので、もっと保育やリハが受けたい リハの職員が少ない(4名) 理学療法士を増やして欲しい 職員に知識の差がありすぎるかなと思う事がある こどもの扱いをきちんとして欲しい職員がいる(周りが見えておらず、転ばされたことがある) 	<ul style="list-style-type: none"> 医療型児童発達支援センターの人員基準は満たしていますが、ご意見は真摯に受け止め、協議してまいります 職員については、現在、OJT他、園内外で研修に参加する機会を設け資質向上に努めておりますが、内容についても検討し、引き続き努力してまいります
	3 生活空間は、本人にわかりやすい環境になっているか。また、障害の特性に応じ、設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切されているか	20	4		1	<ul style="list-style-type: none"> 事業所自体の年数がたっているため限界がある トイレの後、消毒する時に子どもを安全に寝かせる場所がない 空調関係について、部屋ごとに除湿や温度設定が出来るようにして欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> トイレに、お子さんが座る椅子を設置します 空調については建物の構造上、対応できかねます
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	23	2			<ul style="list-style-type: none"> トイレをいつもきれいにしてくれて気持ちよく使うことができありがとうございます 各部屋、トイレ等清潔に清掃されている ゴミブリが出たりする 	<ul style="list-style-type: none"> 年に2回、館全体に防虫防鼠剤を散布する他、生ゴミ等を当日中に園外に出す等行っています。館内他施設にも呼びかけ、館全体で清潔保持に取り組めるよう、努めてまいります
適切な 支援の 提供	1 子どもと保護者のニーズや課題がしっかりと分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	23	2				
	2 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	18	2		5		
	3 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	20	4		1		
	4 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	13	9		3	<ul style="list-style-type: none"> 訓練の先生同士で意見交換などが不足ではないですか? 	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り事前に内容を打合せをし、同じ内容、使う道具が一緒でも、マンネリ化しないようにバリエーションを考えています リハビリテーションについては、担当間や部門内で相談し合う事は多くありますが、ご意見を真摯に受け止め、今後も意見交換を心がけてまいります
	5 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	15	5	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 予定されてるが、日程をあわすのが難しい また、そういった機会がないので(2) 大きいクラスしかされていない 	<ul style="list-style-type: none"> 発達年齢を考慮して、3~5歳児で保育所交流を実施しています 今年度はプール交流を実施する等回数を増やす試みをしてはいますが、次年度以降も回数について、交流先と協議し検討していきます
保護者へ	1 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	20	5				
	2 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	19	1		5		
	3 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	17	2	1	5		<ul style="list-style-type: none"> ペアレント・トレーニングは行っていませんが、保護者対象のミニ講座や勉強会を定期的開催しています。
	4 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況、課題について共通理解ができているか	19	4	2		<ul style="list-style-type: none"> 家での過ごし方を聞いて頂いたり、気にかけてもらっていると感じる 伝えたこと、こうして欲しい事を時々忘れられている感じがする 共通理解というか、共有できている様にはあまり感じない 職員自身が、自分の事でいっぱいになり、話がまともに出来ない状況 	<ul style="list-style-type: none"> 懇談等を通して、共通理解できるように努めていますが、業務の関係で余裕を持ってお話できない日も多いと思います。日頃から保護者に声をかけられるように努めると共に、懇談等の希望に対し柔軟に対応したいと考えています。電話やおたよりポストもご利用ください。
	5 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	18	4	3		<ul style="list-style-type: none"> 病欠の翌日のみ、体調面で親身になるだけ 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に担任による懇談を行う他、必要に応じ柔軟に懇談の機会を設け、保護者との連携に努めます

区分	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
の 説 明 等	6 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	23	2				
	7 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	16	4	1	4	<ul style="list-style-type: none"> 先生に聞いてもらえるのはありがたいですが、具体的な解決を示してもらえず、結局がまんしないといけない感じを受けます 親身に聞いてくれる先生にしか相談できないのは残念 	<ul style="list-style-type: none"> 苦情解決の体制を整えていますが、要望等に苦情として対応していない部分や時間がかかっている場合があります。相談、申し入れに対し、誠意を持って迅速に対応するように努めます
	8 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	20	2	1	1	<ul style="list-style-type: none"> 先生によって、知らなかったりすることがあります 	<ul style="list-style-type: none"> 職員は、職員会議、朝礼等で情報の共有をしています 園からの連絡は、今までと同様「たじかのっこ」、お手紙、掲示板等でお知らせするほか、必要に応じて電話で連絡させていただきます
	9 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	15	4	1	5		<ul style="list-style-type: none"> 毎月、「たじかのっこ」を発行し、園とクラスの予定や連絡等を説明し、お渡ししています
	10 個人情報の取扱いに十分注意されているか	23			2		
非 常 時 等 の 対 応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	21	2	1	1		<ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応マニュアルは、保護者控え室にも置いてありますので、ご確認ください 今年度から一斉メール配信を開始し、非常時の連絡体制を整えました
	2 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	23	1	1		<ul style="list-style-type: none"> 毎月避難訓練はしているが、地震時に実際どこが安全なのか、蛍光灯から離れるまでは訓練しきれずで、いざ災害の時に大丈夫かなと思う 津波の避難訓練の練習をしたほうがよいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画を立て、毎月避難訓練を実施し、都度職員の動きを見直していますが、想定等不十分な点もあったかと思えます さまざまな想定をする他、避難時の注意事項を説明するようにし、より緊急時に対応できる体制作りを目指します
満 足 度	1 子どもは通所を楽しみにしているか	25				<ul style="list-style-type: none"> とても楽しんでます 毎日充実させてもらっています 	
	2 事業所の支援に満足しているか	19	4		1	<ul style="list-style-type: none"> 「さらに…」を常に求め、親としても追求していく 	

保護者への説明等8と満足度2のチェック項目に、無記入の回答が各1名ありました